

(別紙 )

## 物件目録 1

### 1. 被告製品

別紙図面に示し、下記構成を有する衝撃式破砕機におけるハンマ

### 2. 図面の簡単な説明

第1図は被告製品の正面図、第2図は被告製品の平面図、第3図は被告製品の断面図、第4図は被告製品を取付ける衝撃式破砕機の全体を示す断面図である。

### 3. 符号の説明

- 1 ケーシング
- 1 1 投入口
- 1 2 排出口
- 2 ロータ
- 2 0 ハンマ挿入口
- 2 1 ハンマ保持部材
- 2 2 上側支持部材
- 2 3 下側支持部材
- 2 4 止めピン
- 2 5 ライナ部材
- 2 6 ライナ片
- 3 1 第1反撥板
- 3 2 第2反撥板
- 4 ハンマ
- 4 1 ハンマ前面
- 4 2 ハンマ後面
- 5 突起部 (前面側突起部)

- 5 0 アール面取り部
- 5 1 縦溝
- 6 突起部（後面側突起部）
- 6 0 アール面取り部
- 6 1 縦溝

#### 4. 被告製品の構造

被告製品は、ロータ 2 の外周部にハンマ挿入部 2 0 が形成され、このハンマ挿入部 2 0 の背後にハンマ保持部材 2 1 が取り付けられ、前記ハンマ挿入部 2 0 にハンマ 4 を、その上端側がロータ外周面から突出する状態に挿入すると共に、ハンマ 4 の後面に突設した突起部 6 をハンマ保持部材 2 1 で係止することにより、ハンマ 4 をロータ 2 の外周部に取り付け、ロータ 2 の回転に伴うハンマ 4 の回転によって、投入された原料を打撃破碎すると共に、飛散した原料をロータ 2 の周囲に配設した反撥板 3 1, 3 2 により破碎するようにした衝撃式破碎機に使用されるハンマである。

ハンマの前面 4 1 及び後面 4 2 には突起部 5, 6 が突設されている。この場合、前面側突起部 5 は、ハンマの左右方向中央部において上下方向中央部よりやや下側寄り位置に突設され、その根元入り隅部には、ハンマ前面 4 1 に窪み込む状態でアール面取部 5 0 が全周に亘って形成されている。また、他方の後面側突起部 6 は、ハンマ 4 の左右方向中央部において、前面側突起部 5 と上下対称になる位置に突設され、その根元入り隅部には、同様にハンマ後面 4 2 に窪み込む状態でアール面取部 6 0 が全周に亘って形成されている。又、前面側突起部 5 と後面側突起部 6 の頂面には、上面から下面に至るまで延長する縦溝 5 1, 6 1 がそれぞれ形成されている。

#### 5. 被告製品の作用

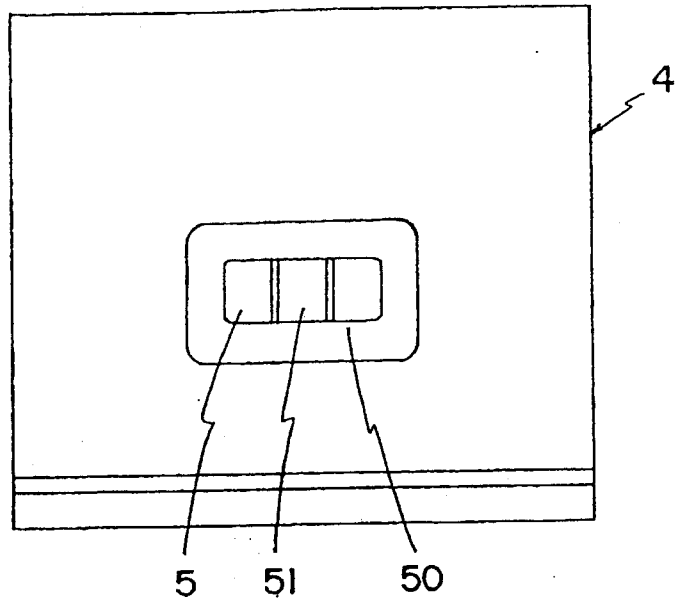
被告製品では、突起部 5, 6 の根元入り隅部に、アール面取部 5 0, 6 0 が形成されている。従って、遠心力や衝撃力による大きな荷重が加わ

るハンマにおいて、突起部 5, 6 の根元入り隅部に生じる応力集中をアール面取部 50, 60 によって防止することができる。

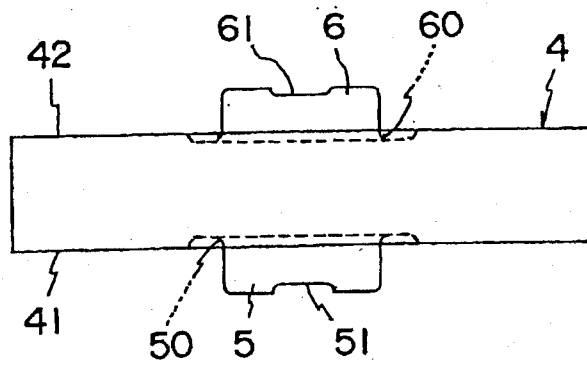
又、被告製品では、突起部 5, 6 の頂面に、突起部 5, 6 の上面から下面に至るまで延長する縦溝 51, 61 が形成されている。このように、突起部 5, 6 の頂面に縦溝 51, 61 を形成すると、この縦溝 51, 61 内を通路としてワイヤロープが突起部 5, 6 上を通るように掛け回すことができる。従って、ハンマ 4 をハンマ挿入部 20 に挿入したまま、突起部 5, 6 上を通るようにワイヤロープを掛け回すことができると共に、ワイヤロープを縦溝 51, 61 内に保持することができるため、ワイヤロープが突起部 5, 6 上から滑ってズレ動くといったことがなく、バランスの崩れを防止することができる。

又、被告製品では、ハンマ 4 が上下反転可能に取り付けられると共に、ハンマ 4 の前面及び後面に突起部 5, 6 が突設され、ハンマ 4 を上下反転した場合に、前面側突起部 5 と後面側突起部 6 の前後位置が入れ替わるように形成されているので、ハンマ 4 の上端部が打撃によって磨耗した場合には、ハンマ 4 を上下反転させることにより付け替えることができる。

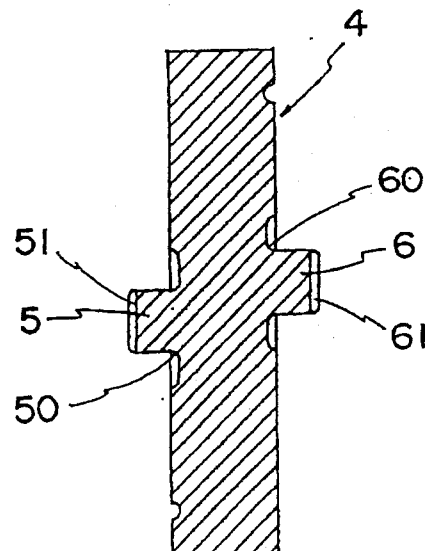
第1図



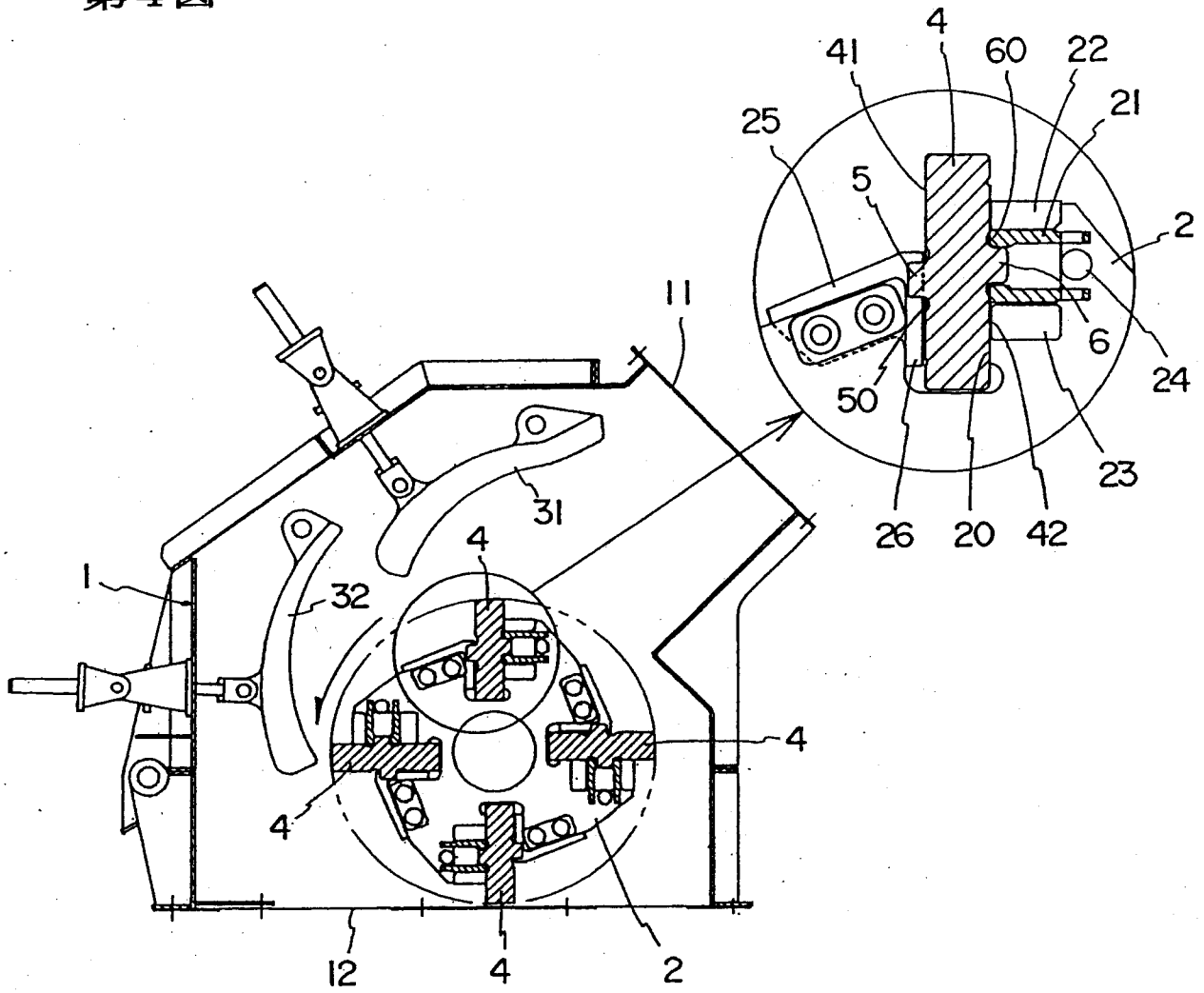
第2図



第3図



第4図



## 物件目録 2

### 1. 被告製品

別紙図面に示し、下記構成を有する衝撃式破砕機におけるハンマ

### 2. 図面の簡単な説明

第1図は被告製品の正面図、第2図は被告製品の平面図、第3図は被告製品の断面図、第4図は被告製品を取付ける衝撃式破砕機の全体を示す断面図である。

### 3. 符号の説明

- 1 ケーシング
  - 1 1 投入口
  - 1 2 排出口
- 2 ロータ
  - 2 0 ハンマ挿入口
  - 2 1 ハンマ保持部材
  - 2 2 上側支持部材
  - 2 3 下側支持部材
  - 2 4 止めピン
  - 2 5 ライナ部材
  - 2 6 ライナ片
- 3 1 第1反撥板
- 3 2 第2反撥板
- 4 ハンマ
  - 4 1 ハンマ前面
  - 4 2 ハンマ後面
- 5 A 突起部（前面側突起部）

5 B 突起部（前面側突起部）

5 0 アール面取り部

5 1 縦溝

6 A 突起部（後面側突起部）

6 B 突起部（後面側突起部）

6 0 アール面取り部

6 1 縦溝

#### 4. 被告製品の構造

被告製品は、ロータ 2 の外周部にハンマ挿入部 2 0 が形成され、このハンマ挿入部 2 0 の背後にハンマ保持部材 2 1 が取り付けられ、前記ハンマ挿入部 2 0 にハンマ 4 を、その上端側がロータ外周面から突出する状態に挿入すると共に、ハンマ 4 の後面に突設した突起部 6 A、6 B をハンマ保持部材 2 1 で係止することにより、ハンマ 4 をロータ 2 の外周部に取り付け、ロータ 2 の回転に伴うハンマ 4 の回転によって、投入された原料を打撃破碎すると共に、飛散した原料をロータ 2 の周囲に配設した反撥板 3 1、3 2 により破碎するようにした衝撃式破碎機に使用されるハンマである。

ハンマの前面 4 1 及び後面 4 2 には突起部 5 A、5 B、6 A、6 B が突設されている。この場合、前面側突起部 5 A、5 B は、ハンマの左右方向中央部において上下方向中央部よりやや下側寄り位置に突設され、その根元入り隅部には、ハンマ前面 4 1 に窪み込む状態でアール面取部 5 0 が各突起部全周に亘って形成されている。また、他方の後面側突起部 6 A、6 B は、ハンマ 4 の左右方向中央部において、前面側突起部 5 と上下対称になる位置に突設され、その根元入り隅部には、同様にハンマ後面 4 2 に窪み込む状態でアール面取部 6 0 が各突起部全周に亘って形成されている。又、前面側突起部 5 A、5 B と後面側突起部 6 A、6 B の頂面には、上面から下面に至るまで延長する縦溝 5 1、6 1 がそれぞれ形成されている。

## 5. 被告製品の作用

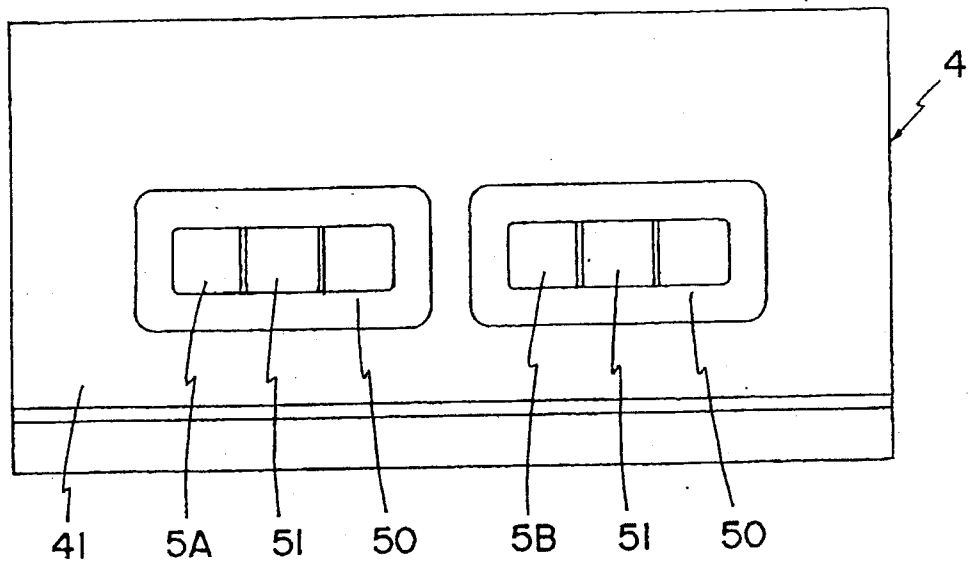
被告製品では、突起部5 A, 5 B, 6 A, 6 Bの根元入り隅部に、アール面取部5 0, 6 0が形成されている。従って、遠心力や衝撃力による大きな荷重が加わるハンマにおいて、突起部5 A, 5 B, 6 A, 6 Bの根元入り隅部に生じる応力集中をアール面取部5 0, 6 0によって防止することができる。

又、被告製品では、突起部5 A, 5 B, 6 A, 6 Bの頂面に、突起部5 A, 5 B, 6 A, 6 Bの上面から下面に至るまで延長する縦溝5 1, 6 1が形成されている。このように、突起部5 A, 5 B, 6 A, 6 Bの頂面に縦溝5 1, 6 1を形成すると、この縦溝5 1, 6 1内を通路としてワイヤロープが突起部5 A, 5 B, 6 A, 6 B上を通るように掛け回すことができる。従って、ハンマ4をハンマ挿入部2 0に挿入したまま、突起部5 A, 5 B, 6 A, 6 B上を通るようにワイヤロープを掛け回すことができると共に、ワイヤロープを縦溝5 1, 6 1内に保持することができるため、ワイヤロープが突起部5 A, 5 B, 6 A, 6 B上から滑ってズレ動くといったことがなく、バランスの崩れを防止することができる。

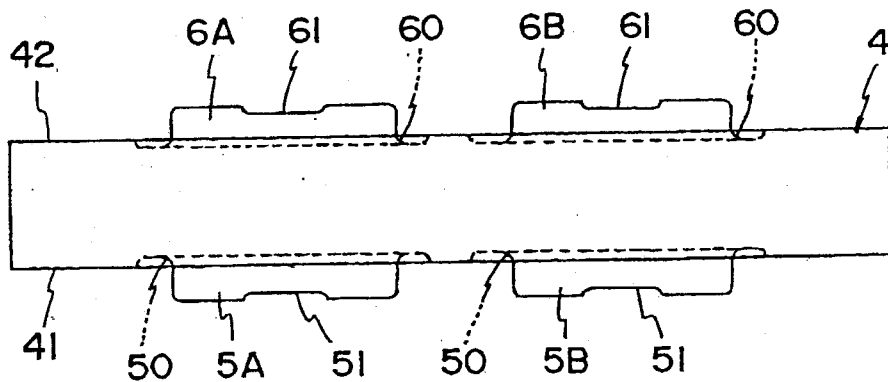
又、被告製品では、ハンマ4が上下反転可能に取り付けられると共に、ハンマ4の前面及び後面に突起部5 A, 5 B, 6 A, 6 Bが突設され、ハンマ4を上下反転した場合に、前面側突起部5 A, 5 Bと後面側突起部6 A, 6 Bの前後位置が入れ替わるように形成されているので、ハンマ4の上端部が打撃によって磨耗した場合には、ハンマ4を上下反転させることにより付け替えることができる。



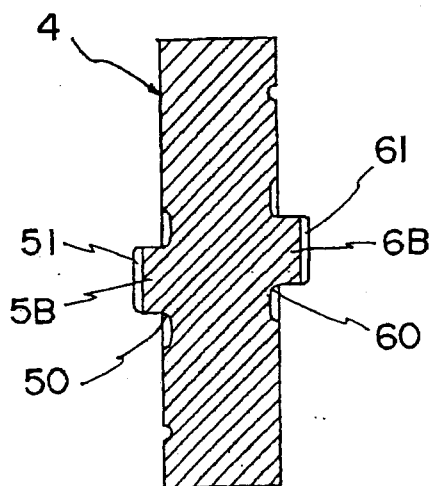
第1図



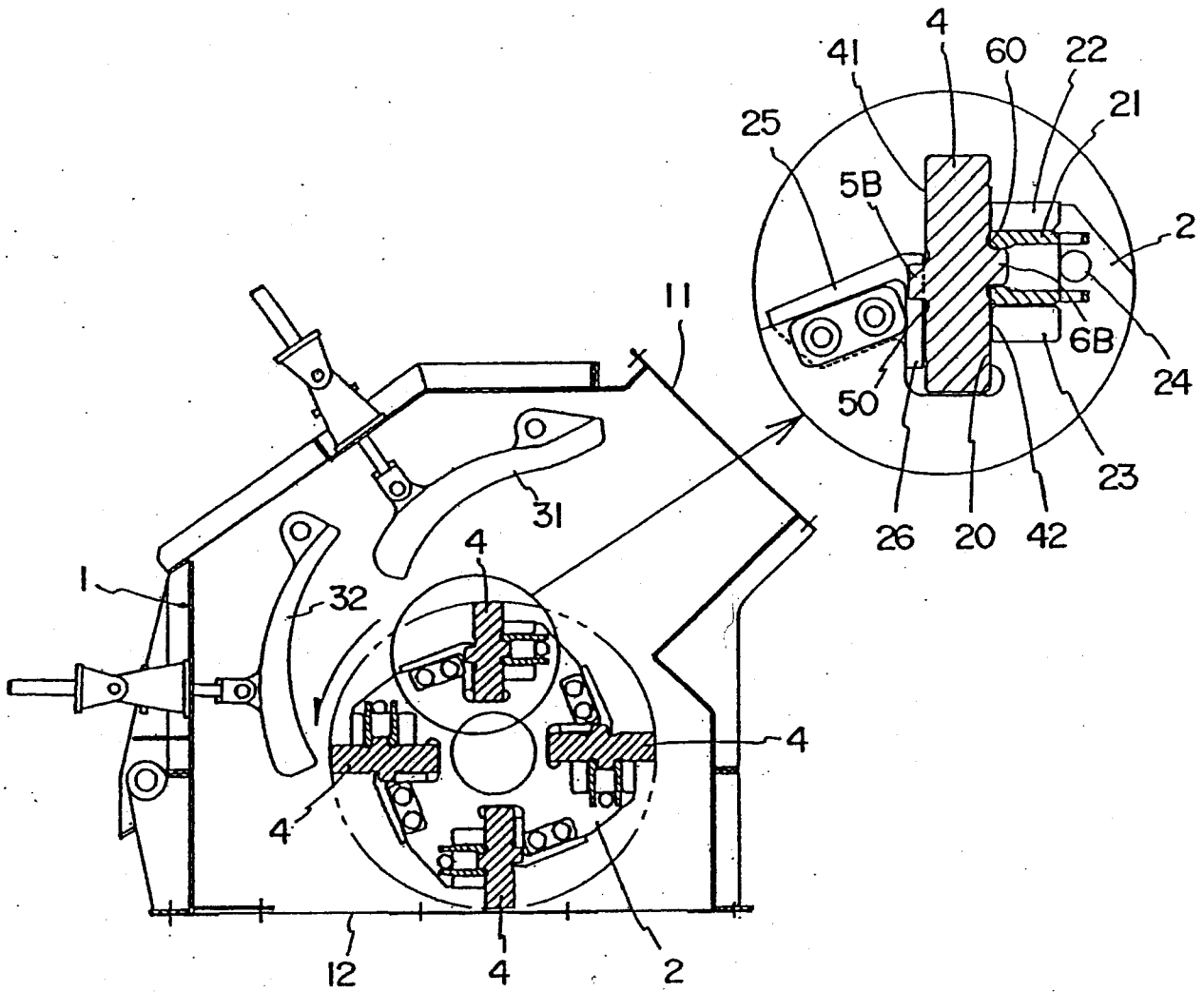
第2図



第3図



第4图



## 物件目録 3

### 1. 被告製品

別紙図面に示し、下記構成を有する衝撃式破砕機におけるハンマ

### 2. 図面の簡単な説明

第1図は被告製品の正面図、第2図は被告製品の平面図、第3図は被告製品の断面図、第4図は被告製品を取付ける衝撃式破砕機の全体を示す断面図である。

### 3. 符号の説明

- 1 ケーシング
- 1 1 投入口
- 1 2 排出口
- 2 ロータ
- 2 0 ハンマ挿入口
- 2 1 ハンマ保持部材
- 2 2 上側支持部材
- 2 3 下側支持部材
- 2 4 止めピン
- 2 5 ライナ部材
- 2 6 ライナ片
- 3 1 第1反撥板
- 3 2 第2反撥板
- 4 ハンマ
- 4 1 ハンマ前面
- 4 2 ハンマ後面
- 5 突起部（前面側突起部）

- 5 0 アール面取り部
- 5 1 縦溝
- 6 突起部（後面側突起部）
- 6 0 アール面取り部
- 6 1 縦溝

#### 4. 被告製品の構造

被告製品は、ロータ 2 の外周部にハンマ挿入部 2 0 が形成され、このハンマ挿入部 2 0 の背後にハンマ保持部材 2 1 が取り付けられ、前記ハンマ挿入部 2 0 にハンマ 4 を、その上端側がロータ外周面から突出する状態に挿入すると共に、ハンマ 4 の後面に突設した突起部 6 をハンマ保持部材 2 1 で係止することにより、ハンマ 4 をロータ 2 の外周部に取り付け、ロータ 2 の回転に伴うハンマ 4 の回転によって、投入された原料を打撃破碎すると共に、飛散した原料をロータ 2 の周囲に配設した反撥板 3 1, 3 2 により破碎するようにした衝撃式破碎機に使用されるハンマである。

ハンマの前面 4 1 及び後面 4 2 には突起部 5, 6 が突設されている。この場合、前面側突起部 5 は、ハンマの左右方向中央部において上下方向中央部よりやや下側寄り位置に突設され、その根元入り隅部には、ハンマ前面 4 1 に窪み込まない状態でアール面取部 5 0 が全周に亘って形成されている。また、他方の後面側突起部 6 は、ハンマ 4 の左右方向中央部において、前面側突起部 5 と上下対称になる位置に突設され、その根元入り隅部には、同様にハンマ後面 4 2 に窪み込まない状態でアール面取部 6 0 が全周に亘って形成されている。又、前面側突起部 5 と後面側突起部 6 の頂面には、上面から下面に至るまで延長する縦溝 5 1, 6 1 がそれぞれ形成されている。

#### 5. 被告製品の作用

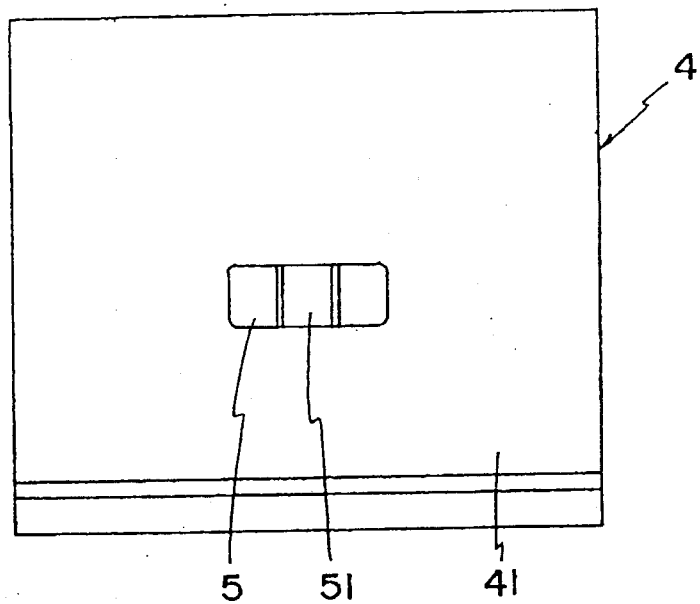
被告製品では、突起部 5, 6 の根元入り隅部に、アール面取部 5 0, 6

0が形成されている。従って、遠心力や衝撃力による大きな荷重が加わるハンマにおいて、突起部5, 6の根元入り隅部に生じる応力集中をアール面取部50, 60によって防止することができる。

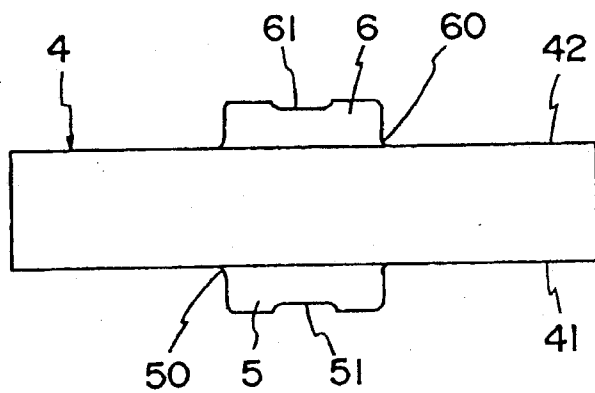
又、被告製品では、突起部5, 6の頂面に、突起部5, 6の上面から下面に至るまで延長する縦溝51, 61が形成されている。このように、突起部5, 6の頂面に縦溝51, 61を形成すると、この縦溝51, 61内を通路としてワイヤロープが突起部5, 6上を通るように掛け回すことができる。従って、ハンマ4をハンマ挿入部20に挿入したまま、突起部5, 6上を通るようにワイヤロープを掛け回すことができると共に、ワイヤロープを縦溝51, 61内に保持することができるため、ワイヤロープが突起部5, 6上から滑ってズレ動くといったことがなく、バランスの崩れを防止することができる。

又、被告製品では、ハンマ4が上下反転可能に取り付けられると共に、ハンマ4の前面及び後面に突起部5, 6が突設され、ハンマ4を上下反転した場合に、前面側突起部5と後面側突起部6の前後位置が入れ替わるように形成されているので、ハンマ4の上端部が打撃によって磨耗した場合には、ハンマ4を上下反転させることにより付け替えることができる。

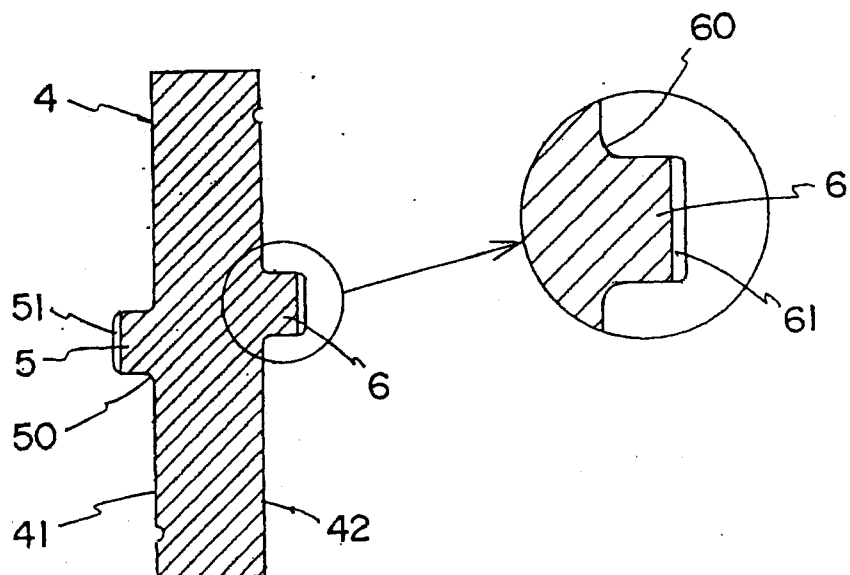
第1図



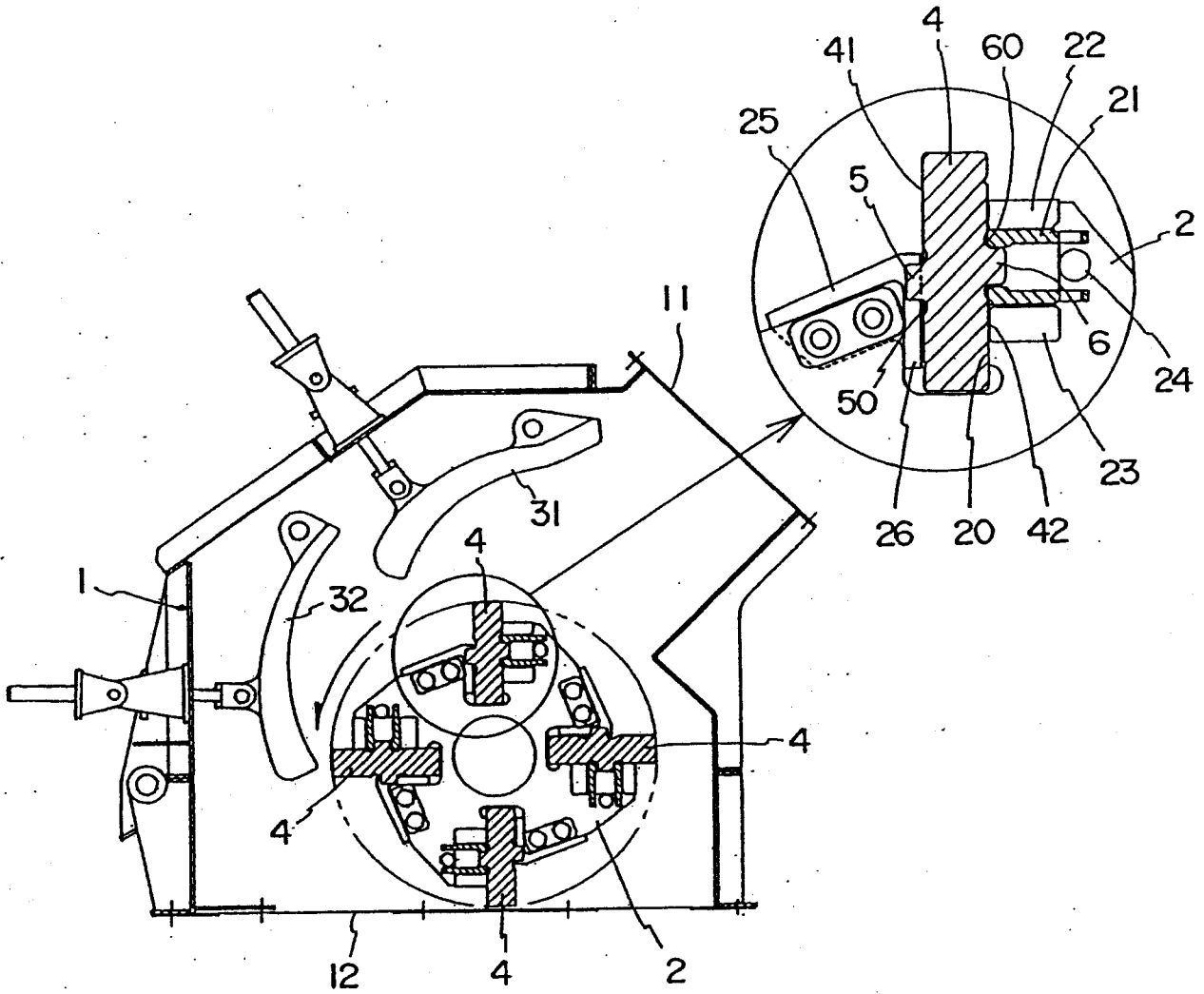
第2図



第3図



第4図



## 物件目録 4

### 1. 被告製品

別紙図面に示し、下記構成を有する衝撃式破砕機におけるハンマ

### 2. 図面の簡単な説明

第1図は被告製品の正面図、第2図は被告製品の平面図、第3図は被告製品の断面図、第4図は被告製品を取付ける衝撃式破砕機の全体を示す断面図である。

### 3. 符号の説明

- 1 ケーシング
- 1 1 投入口
- 1 2 排出口
- 2 ロータ
- 2 0 ハンマ挿入口
- 2 1 ハンマ保持部材
- 2 2 上側支持部材
- 2 3 下側支持部材
- 2 4 止めピン
- 2 5 ライナ部材
- 2 6 ライナ片
- 3 1 第1反撥板
- 3 2 第2反撥板
- 4 ハンマ
- 4 1 ハンマ前面
- 4 2 ハンマ後面
- 5 A 突起部（前面側突起部）



5 B 突起部（前面側突起部）

5 0 アール面取り部

5 1 縦溝

6 A 突起部（後面側突起部）

6 B 突起部（後面側突起部）

6 0 アール面取り部

6 1 縦溝

#### 4. 被告製品の構造

被告製品は、ロータ 2 の外周部にハンマ挿入部 2 0 が形成され、このハンマ挿入部 2 0 の背後にハンマ保持部材 2 1 が取り付けられ、前記ハンマ挿入部 2 0 にハンマ 4 を、その上端側がロータ外周面から突出する状態に挿入すると共に、ハンマ 4 の後面に突設した突起部 6 A、6 B をハンマ保持部材 2 1 で係止することにより、ハンマ 4 をロータ 2 の外周部に取り付け、ロータ 2 の回転に伴うハンマ 4 の回転によって、投入された原料を打撃破碎すると共に、飛散した原料をロータ 2 の周囲に配設した反撥板 3 1、3 2 により破碎するようにした衝撃式破碎機に使用されるハンマである。

ハンマの前面 4 1 及び後面 4 2 には突起部 5 A、5 B、6 A、6 B が突設されている。この場合、前面側突起部 5 A、5 B は、ハンマの左右方向中央部において上下方向中央部よりやや下側寄り位置に突設され、その根元入り隅部には、ハンマ前面 4 1 に窪み込まない状態でアール面取部 5 0 が各突起部全周に亘って形成されている。また、他方の後面側突起部 6 A、6 B は、ハンマ 4 の左右方向中央部において、前面側突起部 5 と上下対称になる位置に突設され、その根元入り隅部には、同様にハンマ後面 4 2 に窪み込まない状態でアール面取部 6 0 が各突起部全周に亘って形成されている。又、前面側突起部 5 A、5 B と後面側突起部 6 A、6 B の頂面には、上面から下面に至るまで延長する縦溝 5 1、6 1 がそれぞれ形成されている。

る。

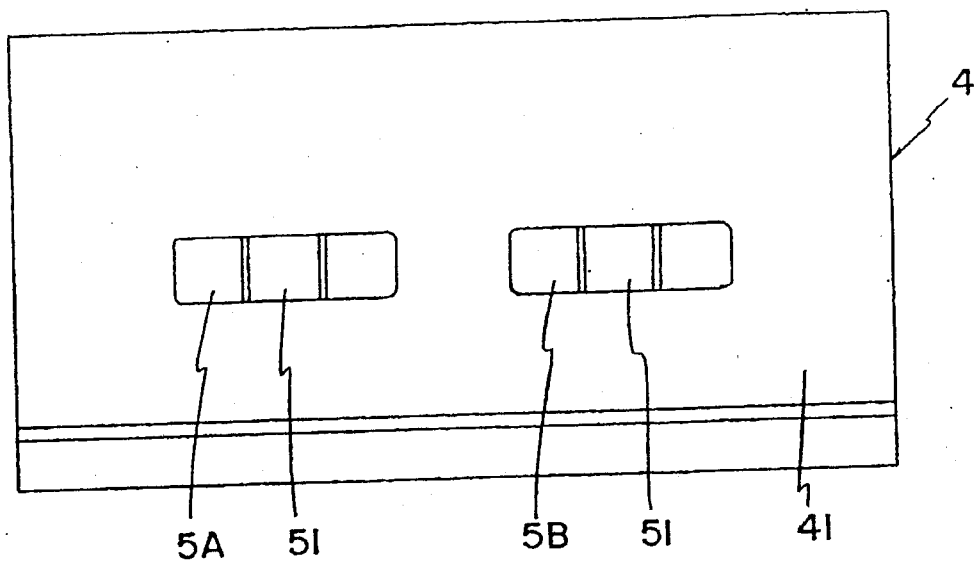
## 5. 被告製品の作用

被告製品では、突起部 5 A, 5 B, 6 A, 6 B の根元入り隅部に、アール面取部 5 0, 6 0 が形成されている。従って、遠心力や衝撃力による大きな荷重が加わるハンマにおいて、突起部 5 A, 5 B, 6 A, 6 B の根元入り隅部に生じる応力集中をアール面取部 5 0, 6 0 によって防止することができる。

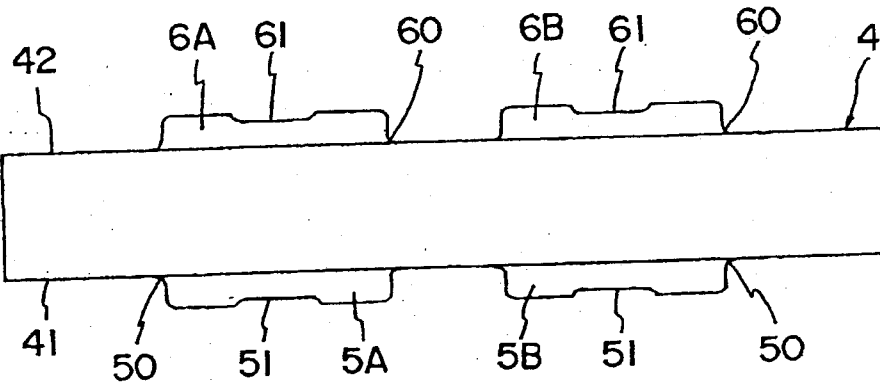
又、被告製品では、突起部 5 A, 5 B, 6 A, 6 B の頂面に、突起部 5 A, 5 B, 6 A, 6 B の上面から下面に至るまで延長する縦溝 5 1, 6 1 が形成されている。このように、突起部 5 A, 5 B, 6 A, 6 B の頂面に縦溝 5 1, 6 1 を形成すると、この縦溝 5 1, 6 1 内を通路としてワイヤロープが突起部 5 A, 5 B, 6 A, 6 B 上を通るように掛け回すことができる。従って、ハンマ 4 をハンマ挿入部 2 0 に挿入したまま、突起部 5 A, 5 B, 6 A, 6 B 上を通るようにワイヤロープを掛け回すことができると共に、ワイヤロープを縦溝 5 1, 6 1 内に保持することができるため、ワイヤロープが突起部 5 A, 5 B, 6 A, 6 B 上から滑ってズレ動くといったことがなく、バランスの崩れを防止することができる。

又、被告製品では、ハンマ 4 が上下反転可能に取り付けられると共に、ハンマ 4 の前面及び後面に突起部 5 A, 5 B, 6 A, 6 B が突設され、ハンマ 4 を上下反転した場合に、前面側突起部 5 A, 5 B と後面側突起部 6 A, 6 B の前後位置が入れ替わるように形成されているので、ハンマ 4 の上端部が打撃によって磨耗した場合には、ハンマ 4 を上下反転させることにより付け替えることができる。

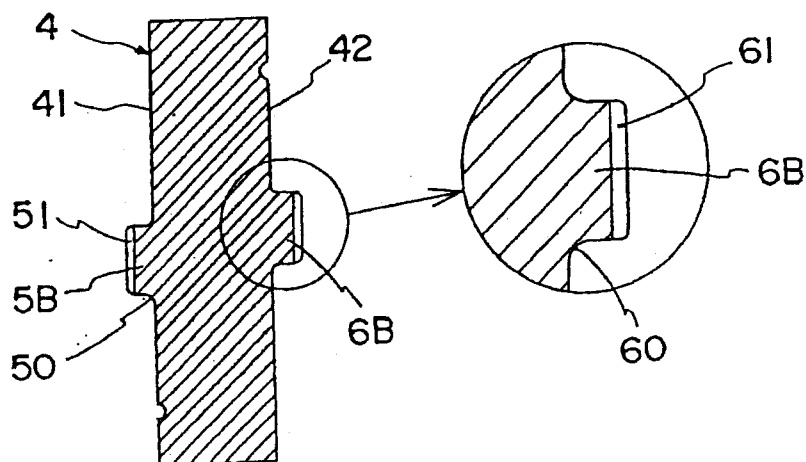
第1図



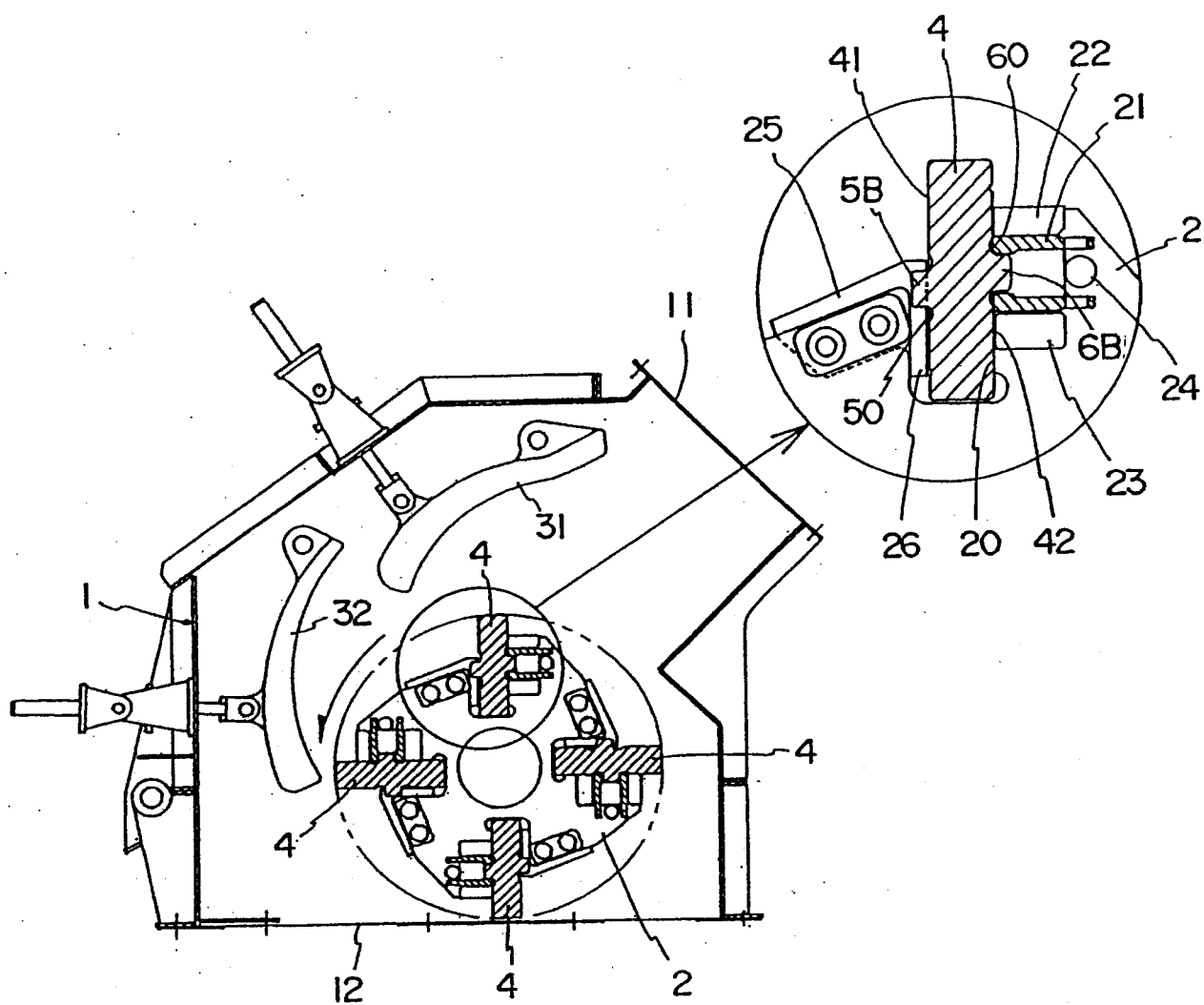
第2図



第3図



第 4 图

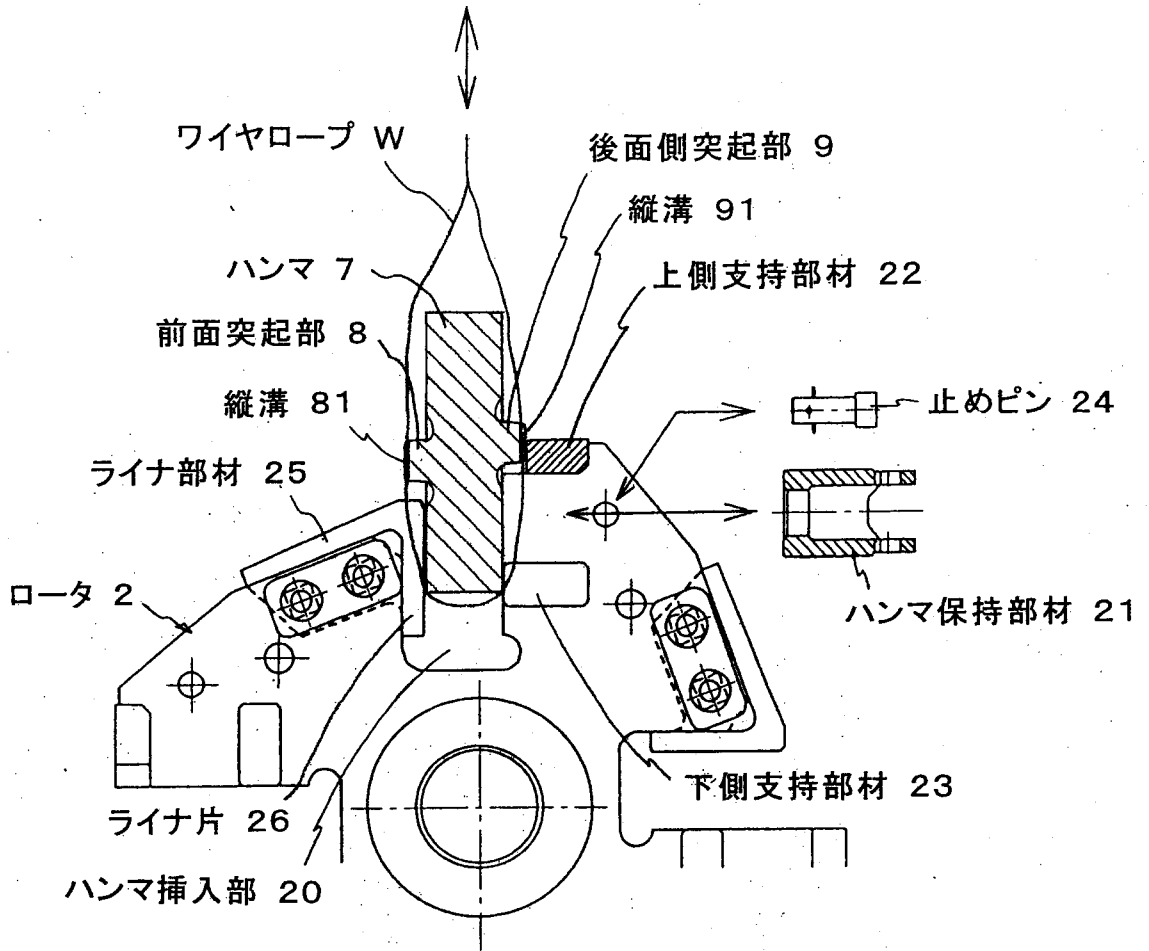


(別紙

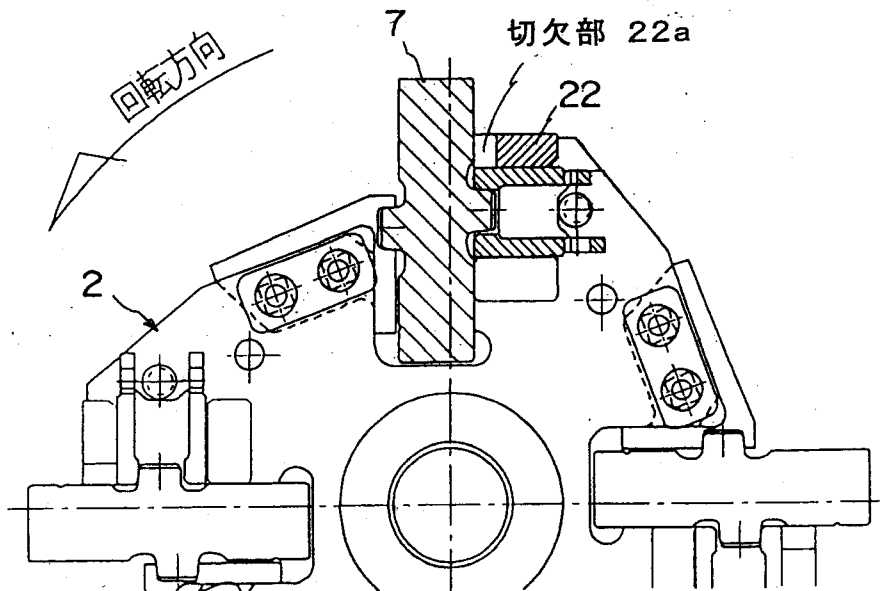
)

# ハンマ挿入図面

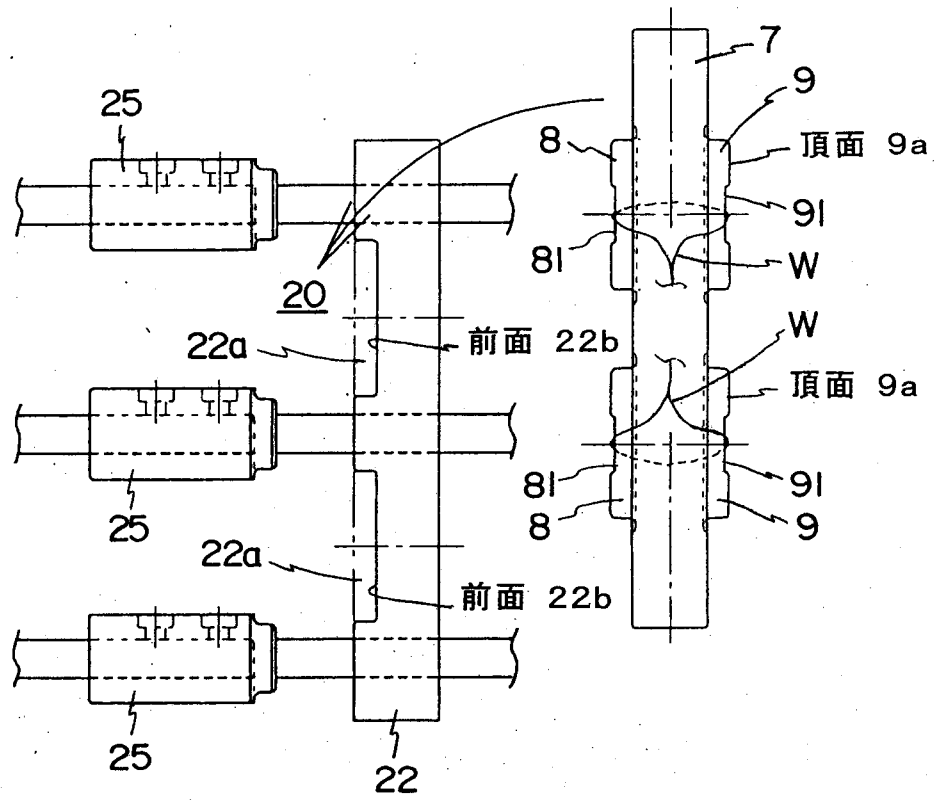
【図 1】



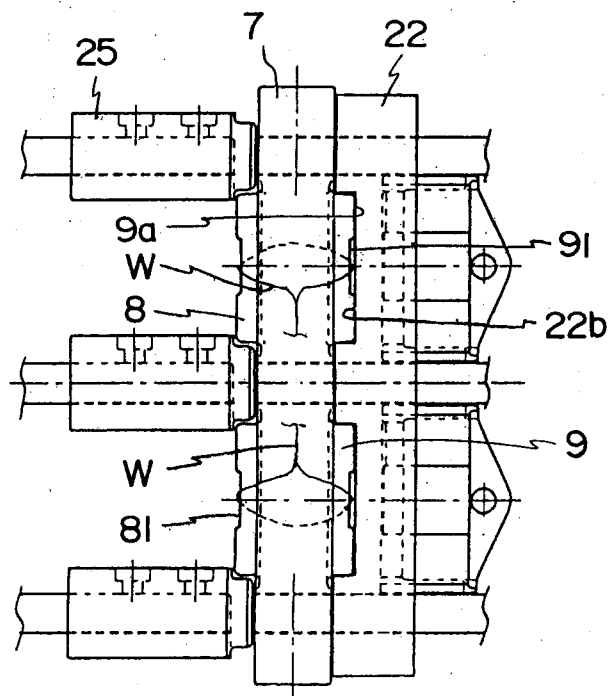
【図 2】



【圖 3】



【圖 4】



(別紙)

## 逸失利益算定表

	型式	販売数	売上		仕入れ		経費					利益	
			製品	運送費	売上合計	製品(鑄鉄)代	木型代	支払金額	輸入消費税	乙仲費用	運送費		経費合計
1号製品	ACD1B	8	309,600	15,000	324,600	186,030	37,500	196,708	9,700	29,530	19,530	255,468	69,132
	NCDH1B	16	540,000	35,715	575,715	332,200	0	292,084	14,200	59,060	58,800	424,144	
口号製品	ACD1A	16	853,200	30,000	883,200	506,550	16,500	450,967	22,312	50,888	69,248	593,415	289,785
	ACD1B	8	328,000	15,000	343,000	178,588	12,000	188,174	9,312	8,830	17,325	223,641	
二号製品	NCDH1B	24	888,000	50,000	938,000	489,720	0	479,952	23,786	23,490	66,150	593,378	344,622
	ACD1A	8	448,000	0	448,000	241,362	3,300	224,654	12,137	9,362	16,794	262,947	
合計		80	3,366,800	145,715	3,512,515	1,934,450	69,300	1,832,539	91,447	181,160	247,847	2,352,993	1,159,522